あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.241　2022.9.15

もくじ

特　　集 ◇ 新松本市立博物館 建物完成 ……2
博物館のノートから ◇ ぼんぼんと青山様 ……4
博物館TOPICS ◇ 考古博物館 秋季企画展 / はかり資料館 企画展 ……6
資　料　紹　介 ◇ アジア初の大発見！シガウスバハギの化石……7
ガイドコーナー ◇ はんてんぼく……8

掲載されている各種事業は、新型コロナウイルスの感染状況などによって急遽中止となる場合がございます。開催の可否などについては、各館にお問い合わせください。

特　集

新 松本市立博物館 建物完成

2022年7月15日に新松本市立博物館の建物の工事が完了しました。引き続き展示工事や事務所、博物館資料の引越しなどがはじまります。開館は、2023年10月を予定しています。

令和２年（2020）３月から、建築工事に着手し、完成までには約２年４ヶ月の歳月がかかりました。その間には、延べ 20,000 人という多くの人が建設に携わりました。

新博物館は、もともと上級武士の屋敷のあった松本城三の丸に建設され、歴史や伝統という点を踏まえた建築デザインとなっています。

また、市民や観光客が多く訪れるまちなかの博物館として、歩道から連続した軒下やウィンドウギャラリーなど、気軽に立ち寄れる開放的な博物館となるよう工夫が凝らされています。

多くの人の思いのこもったこの建物を、市民の皆さんが楽しく学べる博物館にしていけるよう頑張っていきたいです。

◉建設工事写真

切妻屋根

蔵造りをイメージした切妻屋根。新博物館のVI（ビジュアルアイデンティティ）のモチーフにもなっています。

Matsumoto City Museum

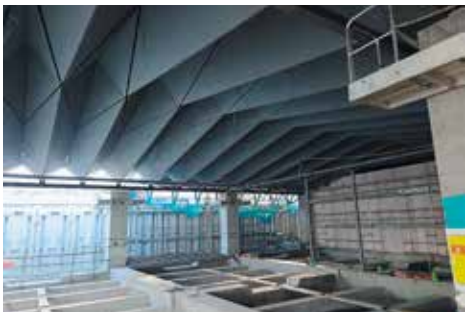
蔵造りの白漆喰のような配色。壁の凹凸模様は松本てまりをイメージしています。

外壁

ウィンドウギャラリー

1階の南側は、通りと一体化した軒下で、窓際には棚が設置され、さまざまなものを展示できるギャラリーとなっています。

（松本市立博物館　学芸員 / 原澤知也）



松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

ぼんぼんと青山様

はじめに～ぼんぼんは盆踊り～

新型コロナウイルス感染症により、2年ほど地域の年中行事が滞っています。特に、保護者会を中心に引き継がれているぼんぼんと青山様は、何のために行うのかがわからないという問い合わせが博物館にも寄せられました。そこで、これを機会に、ぼんぼんと青山様についてまとめておこうと思います。

ぼんぼんは、盆踊りの一つの形態です。盆踊りには、大きく分けてふたつの形態があります。ひとつは、広場で輪になって踊る輪踊りで、もうひとつは隊列を組んで道路を進みながら踊る行進踊りです。現在の松本の行事を例に挙げれば、輪踊りは松本城公園で行われる「お城盆踊り」のような形態、行進踊りは「松本ぼんぼん」のような形態の踊りです。

この二つの形態は、本来の盆踊りを構成する重要な要素だったのではないかと思います。そのことは、阿南町の新野の盆踊りが、8月14日から16日まで夜通し櫓を中心に踊り明かし、最終日の夜明け前(17日の早朝)に、「踊り神送り」といって、新盆を迎えた家の灯籠が列を組み、踊り手と争いながら瑞光院の広場に送る行進踊りへ形を変えることから推測されます。ここで重要なのは、中心に置かれていた灯籠を、送リ出すことです。

お盆の火といえば、迎え火や送り火のように、祖先の霊を導くための目印です。輪の中の火を目指して集まった祖先の霊を楽しませるため、いっしょに踊るのが盆踊りの目的です。

ぼんぼん

ぼんぼんは、先の二つの類型に当てはめれば、行進型の盆踊りになります。はじめに「ぼんぼんは盆踊り」だと書きましたが、ぼんぼんは踊りません。ぼんぼんは、江戸時代には江戸をはじめ、越後（新潟県）や尾張（愛知県西部）など各地で踊られていて『浮世風呂』や『甲子夜話』など、いろいろな文献に紹介されています。しかし、江戸時代後期にはすでに廃れ、今では、全国でも松本にだけ残る珍しいお盆の行事として、松本市重要無形民俗文化財に指定されています。

ぼんぼんの様子(平成26年)

『伊那の中路』の挿絵

天明3年（1783）から翌4年まで、松本周辺に滞在した菅江真澄は、洗馬と田沢、大町の3カ所で、盆踊りを見て記録に残しています。

洗馬では、七夕に人形を飾った後、「女の子はお化粧をしてきれいに着飾り、ささらをすって歌をうたう」とあります。また、13日の迎え盆にも、夕暮れになると「女の子たちが七日の夕べと同じように着飾って、『大輪にござれ、丸輪にござれ、十五夜さんの輪のごとく』と歌ってささらをすって群れだってあるく」（いずれも『伊那の中路』）とあります。

大町では、翌年の送り盆の盆踊りの様子が、「寝る時間を告げる鐘が鳴り終わるころから、男は女に姿を変え、女は男のふりをして、菅笠をかぶり、あるいは御高祖頭巾に顔を包んで踊る」（『くめじの橋』）とあり、中心に提灯を吊って輪になって踊る様子をスケッチしており、秋田県の西馬音内（にしもない）の盆踊り（重要無形民俗文化財）を髣髴（ほうふつ）とさせます。

昭和9年（1934）の『旅と伝説』という雑誌に、武川乃粼が「松本の八月の行事」として、松本の

ぼんぼんを次のように紹介しています。

八月一日から始めて一六日に止む。夕食が済むと町内の女児は、その町に近い定まった橋の上に集まり、背の順に二列に並び、襷をかけて互に手を肩にかけ、片手に丸い提灯を下げ、街通りを盆唄を唄って歩く。九時になると元の橋の上で解散する。

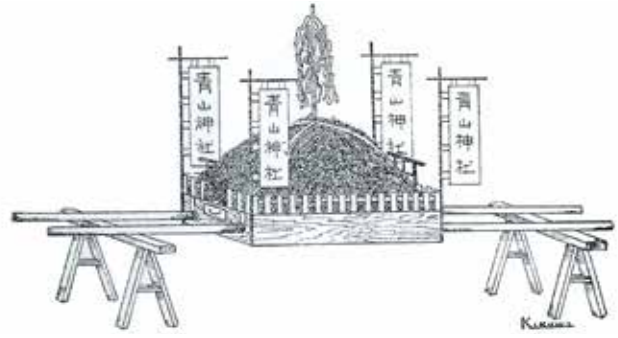
列を組んで盆歌をうたって歩く様子は、江戸のぼんぼんとよく似ています。違うのは提灯を持っていることです。ぼんぼんは、江戸では女の子が昼間行いましたが、松本では夜の行事でした。提灯が祖先の霊を導く目印であることを考えれば、江戸のぼんぼんが廃れたのは、祖先の霊を導くという目的を見失ったためと考えられます。

青山様

それでは、女の子のぼんぼんといっしょに行われる男の子の青山様にはどのような意味があるのでしょうか。武川が「松本の八月の行事」の中で、深志神社の宮司に聞いたことを次のように報告しています。

青山神社は市内の神社でもないが、旧来正月、子供が道祖神を祭って、杉葉で神輿を作り通行人より幾分の賽銭をもらう習慣があり、明治初年頃より、夏期、深志神社の例祭が済むと、青山神社と称し杉葉神輿を担ぎ、市内を練り歩く様になった。

この報告から、青山様は古くからぼんぼんといっしょに行われていたのではなく、明治になって始まったことがわかります。では、何のために賽銭を集めたのでしょうか。



「松本の八月の行事」の挿絵

全国に目を向けると、お盆の終わりに「盆釜」などといって子どもたちが集まって食事をするところがあります。松本市内では、安曇地区の稲核で、七夕様を送るときに子どもたちが河原に集まり「イモ煮」をしました。稲核ではジャガイモは七夕の主な供え物で、子どもたちは七夕送りで川に流したジャガイモを煮て食べたそうです。稲核に限らず、松本では七夕やお盆にジャガイモの煮物を儀礼食としています。

松本のまちでも、戦後まで子どもたちのお盆の共同飲食が行われていたそうです。メニューは五目飯です。お供えを一緒に炊きこんだかて飯がもとになっていそうです。お正月の雑煮に通じるものがありそうです。集めた賽銭は、五目飯の材料を買う費用にあてられたものと思われます。

青山様は青山仕立ての神輿のことです。輿の中央を玉垣で結界し、常緑の杉の葉を盛って神霊の依り代として、簡易な神様の乗り物としました。昔の人は、いつもは天にいる神様が、人々の求めに応じ山に降りてくると考えました。祭りのときの神様の乗り物を「山」というのはそのためです。ちなみに山に車をつけて移動しやすくしたものが「山車（だし）」です。つまり、山は移動する神社で、青山様の神輿は祖先の霊を招く装置なのです。

おわりに～後世に伝えたい大切な行事～

ぼんぼんは、お盆に迎える祖先の霊を盆踊りにいざない、またあの世に送り返すための行事です。その役を担う子どもたちの共同飲食にあてる費用を集める行事が青山様です。

現在は、少子化ということで、青山様だけを行っている地域もあるようです。しかし、行事が廃れていく理由は少子化だけではなく、お盆の行事が変わってきたことの方が大きいのではないでしょうか。お盆は仏教が大きく影響し、家で盆棚を飾ってご先祖様を迎えることが中心となり、共同体で行う盆踊りのような行事が行われなくなってきました。

その一方で、地域の結束を高めるために、新たにぼんぼんや青山様を始めるところもあるのは、興味深いところです。このことは、ぼんぼんや青山様という行事に、地域の一体感を高める効果が期待されていることを示しています。ぼんぼんと青山様は、祖先の霊を迎え導くという本来の目的だけではなく、地域の絆を深めるという効果もあったため長く続いてきたのです。この行事は「松本のぼんぼん・青山様」として長野県の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されています。松本の先人たちが伝えてきた伝統ある行事を早急に現状を調査し、長く後世に伝えていかなくてはなりません。

（松本市立博物館　館長／木下守）

松本市立考古博物館 Tel.0263-86-4710

秋季企画展「“帰るモノたち”共に歩んだ考古資料展 ～松本を去る前にちょっとだけお見せします～」

現在も開館へ向けて着々と準備が進められている新博物館ですが、松本市立博物館で収蔵されてきた考古資料の中には、他市町村から出土した遺物も多くあります。この度の移転新築に伴う資料整理において、以下６カ所の自治体にそれら資料が返却されることとなりました。そこで考古博物館では、各自治体へ帰郷する資料の一部を秋季企画展で展示します。

〈返却先市町村及び返却資料数〉

・塩尻市（双口土器などの縄文土器や石鏃類計275点）
・山形村（縄文土器や磨製石斧など計453点）
・安曇野市（錫杖頭、須恵器計２点）
・南牧村（石器類計２点）
・大町市（注口土器１点）
・信濃町（石器類計32点）

双口土器（縄文時代）　塩尻市峯畑遺跡

松本市立博物館に収蔵されていた考古資料の多くは、市民の方々からの寄贈品です。高校の地歴会や個人の方など様々な経緯から松本市立博物館に収められることとなりましたが、その根底には公的機関で保管されることによって、散逸や遠方への流出、破損を防ぎ、出土品を考古資料や文化財として後世に残すべきものとする強い思いがあったのでしょう。松本市立博物館の歴史において、松本平の考古学を広く理解する一役を担うため共に歩んできたこれら資料が、郷里へ帰り新たな一歩を踏み出すこととなります。今までの感謝とエールを込めて、その姿を瞼に焼き付けるためぜひ考古博物館へご来館ください。

また、３年ぶりに開催される第42回あがたの森考古学ゼミナールでは、「－過去へ－足跡（そくせき）をたどって」と題し企画展と連携した内容で、塩尻市立平出博物館の小松学館長（第１講）と松本市教育委員会文化財課の直井雅尚職員（第２講）の講演会を行います。地元研究者だからこそ語ることができる松本市と近隣市町村の発掘逸話をご聴講ください。

会期:9月3日（土）から11月27日（日）まで

（松本市立考古博物館　学芸員／西村奈美）

松本市はかり資料館 Tel.0263-36-1191

企画展「今昔はかり展」昭和の手動計算道具

アポロ宇宙船に搭載され、スタジオジブリ制作の長編アニメーション映画『風立ちぬ』の航空機設計の場面に登場した、手動式の計算道具の一つ、「計算尺」について紹介します。

計算尺には、写真のような長方形の他にも円形のものがあります。そろばんのように日本商工会議所の検定試験も行われていました。

机上に計算尺を置き、滑尺（すべりじゃく）やカーソルと呼ばれる部分を動かして計算をします。計算尺は掛け算・割り算に威力を発揮し、平方根や三角関数などの計算もできます。

計算尺の有効数字は３ケタしかないので、誤差が生じることもありますが、それは大きな問題とはなりません。計算尺の使用の目的は数学としての正確な数字では無く、主に技術者が扱う数字であるからです。

計算尺

計算尺の計算方法を限られた字数の紙面でお伝えすることは難しいので、この機会に松本市はかり資料館で、掛け算・割り算を体験してみてください。

また、今回の「今昔はかり展」では、手回し計算器と呼ばれる計算器も展示します。

こちらは高価なもので、一般の家庭で使われたものではないため、いっそう馴染みのない計算器です。

最近は携帯電話の機能で計算が簡単にできるので、電卓でさえ使用することが少なくなっています。この企画展が、昔からのそろばんから電卓に移り変わる間に存在し、今や消えゆく手動の計算道具を知るきっかけとなればと思います。

会期:10月25日（火）から12月27日（火）まで

（松本市はかり資料館　学芸員／遠山順子）

アジア初の大発見！シガウスバハギの化石

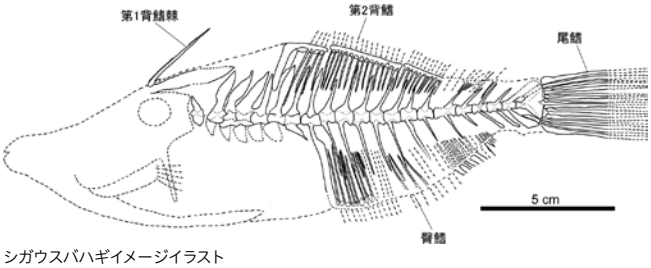
1　化石の宝庫―松本市四賀―

山国信州ははるか昔海の中にありました。地殻変動に起因するプレート移動によって海底が隆起し、現在の長野県が誕生したと言われています。長野県が海だった頃の環境を示すものとして、主な産地として北は戸隠から南は阿南町まで、様々な種類の海洋生物の化石が発掘されています。中でも、松本市の北東部に位置する四賀地区は、世界最古のマッコウクジラ化石（シガマッコウクジラ全身骨格化石）が発掘されてから、より化石の産地として注目されるようになりました。化石の発見により、新生代新第三紀中新世中期（約1300万年前）ごろの松本盆地は、比較的深い海が広がっており、生物多様性に富んだ地域だったと推察されます。

2　シガウスバハギの発掘

今回は、松本市天然記念物に指定されているシガウスバハギの化石を紹介します。この化石は、平成24年（2012）9月9日に、京都大学理学部4年生(当時)の宮嶋佑典氏(安曇野市出身)によって発見されました。卒業研究のため、四賀地区を流れる保福寺川で発掘調査をしていたところ、とても保存状態の良い魚の化石が発掘されました。同種と比較したところ、第一背びれの特徴等が異なるため、新種として論文に記載されました。

平成26年（2014)、発見者の宮嶋佑典氏は大江文雄氏（高校教諭)、小池伯一氏（四賀化石館研究専門員)、松岡廣繁氏（京都大学理学博士)、と共同で論文を発表しました。発見地の四賀にちなんで、和名は「シガウスバハギ」と名付けられ、カワハギ科ウスバハギ属の新種と同定されました。カワハギ科化石の発見ではイタリア、ギリシャ、北アメリカに次いで4例目の発見となりました。

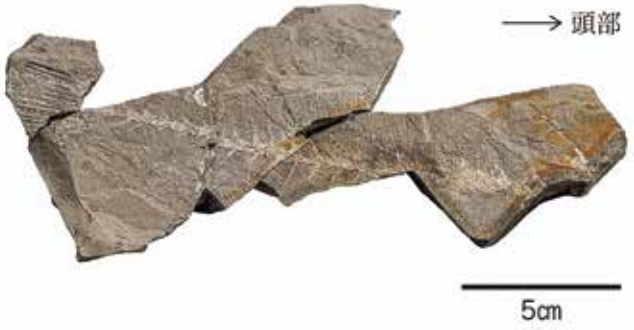


シガウスバハギイメージイラスト

3　シガウスバハギ発見からの推察

シガウスバハギは、現在の熱帯～亜熱帯地域の海に生息するソウシハギに近い特徴を持っています。

このことから、当時の松本地域は比較的温暖な環境だった可能性が高いと推察することができます。



シガウスバハギの化石

4　松本市天然記念物への指定

シガウスバハギは、令和3年（2021）12月に松本市天然記念物に指定されました。松本市天然記念物とは、学術上貴重で、松本の自然を記念するものとして指定される動物、植物、地質・鉱物のことです。四賀化石館では、シナノアロデスムス（シナノトド）と、シガウスバハギを常設展示しており、この大切な財産をより多くの皆様に知っていただくため、貴重な化石等を公開しています。また、当館では毎年化石教室や夏休み3講座などの博物館事業も開催しています。

多様な化石に触れることを通して、はるか太古の松本の海に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

（松本市四賀化石館　学芸員 / 藤原裕希）

(参考文献)
宮嶋佑典・大江文雄・小池伯一・松岡廣繁（2013）「長野県松本市反町の中新統別所層から産出したカワハギ科魚類化石」（日本古生物学会）

※申込み・問合せは各館へお電話ください

展示スケジュール

詳細はホームページへ！ https://www.matsu-haku.com/　まる博　検索

館名称	9月	10月	11月	12月
松本民芸館	■企画展「丸山太郎へのオマージュ～時にふれて～」 9/17㈯～2023/3/12㊐			
松本市立考古博物館	■秋季企画展「“帰るモノたち”共に歩んだ考古資料展～松本を去る前にちょっとだけお見せします～」 9/3㈯～11/27㊐			
松本市はかり資料館		■計量記念日関連展示「今昔はかり展」 10/25㈫～12/27㈫		
窪田空穂記念館	■最新収蔵資料公開展・空穂と三高弟の歌セレクション 9/13㈫～10/30㊐			
重要文化財馬場家住宅	■開館25周年記念「馬場家所蔵品展」 9/17㈯～11/13㊐			

※料金は通常観覧料　※月曜休館（休日の場合は翌平日）

松本市立博物館から　☎0263-32-0133

第3回博物館まつり

博物館を中心に活動する皆さんによるイベントを開催します。ぜひ、足をお運びください。

日　時　9月24日（土）午前9時～午後4時
料　金　松本市立博物館全分館の観覧料無料

◇歴史の里（TEL47-4515）

①「松本の七夕を知ろう」（歴史の里へ要予約）
②「松本地方の化石」、③「昔の遊び」
④「歴史の里館内案内」、⑤「松本六地蔵調査発表」

◇旧制高等学校記念館（TEL35-6226）

⑥「屋根のない博物館松本を歩く～旧制松本高等学校界隈～」（旧制高等学校記念館へ要予約）

◇まちなか（※松本市立博物館TEL32-0133へ要予約）

⑦「まる博deウォーキング」
（3コースあり。詳細はお問合せください。）

申込み　①⑥⑦のみ9月6日（火）午前9時から電話で各館へ

時計博物館から　☎0263-36-0969

SPレコードコンサート2022

レコードの日である11月3日に合わせて、当館所蔵の蓄音機によるコンサートを開催します。

日　時　11月3日（木・祝）午後2時～3時
会　場　時計博物館3階企画展示室（演奏中、会場への出入り自由）
料　金　通常観覧料（大人310円　小中学生150円）
申　込　不要

馬場家住宅から　☎0263-85-5070

隠居屋・茶室特別公開

普段は見られない隠居屋（国重要文化財）及び茶室（重要文化財附指定）を特別公開します。

日　時　10月8日（土）
①午前10時～11時、②午後2時～3時
料　金　無料（ただし、入館時に通常観覧料が必要）
定　員　各回10人（要予約・先着順）
申込み　9月17日（土）午前9時から電話で馬場家住宅へ

歴史の里から　☎0263-47-4515

歴史の里建築講座　講演会「松本の擬洋風建築と立石清重」

日　時　10月8日（土）午後2時～3時30分
会　場　あがたの森文化会館　講堂ホール
料　金　無料
定　員　150人（要予約）
講　師　藤森照信氏/東京大学名誉教授・江戸東京博物館館長
申込み　ながの電子申請サービスでお申込みください。（詳細はホームページにてお知らせします。）

考古博物館から　☎0263-86-4710

第42回あがたの森考古学ゼミナール「一過去へ一足跡（そくせき）をたどって」

①「発掘で振り返る塩尻の遺跡」
②「昭和の頃の遺跡、発掘、出土品-松本市周辺の状況-」

日　時　①9月10日（土）、②10月1日（土）いずれも午後1時～3時
会　場　あがたの森文化会館講堂1階ホール
料　金　各講200円
定　員　各講100人（要予約・先着順）
講　師　①小松学氏/塩尻市立平出博物館館長
②直井雅尚/松本市教育委員会文化財課職員
申込み　電話で考古博物館へ

縄文土器づくり講座

市内出土の土器を見本として、焼かない粘土で縄文土器を作ります。

日　時　10月15日（土）　午前9時～正午
会　場　考古博物館　2階体験学習室
料　金　500円
定　員　先着12人（要予約・先着順）
対　象　小学校4年生以上（小学生の方は保護者同伴）
申込み　9月28日（水）午前9時から電話で考古博物館へ

旧山辺学校校舎から　☎0263-32-7602

第1回探古会（古文書読解講座）

日　時　11月23日（水・祝）午前9時～正午
会　場　松本市教育文化センター3階　視聴覚ホール
料　金　1人500円
定　員　40人（要予約・先着順）
対　象　どなたでも
講　師　青木教司氏/元松本城管理事務所研究専門員・現NHKカルチャー「ゆっくり、楽しい古文書」「古文書読解入門講座」講師
持ち物　筆記用具、飲み物（必要な方）
申込み　11月6日（日）午前9時から電話で旧山辺学校校舎へ

しめ縄作り教室

日　時　12月4日（日）午前9時～正午
会　場　旧山辺学校校舎内
料　金　通常観覧料（高校生以上200円、中学生以下無料）
定　員　30人（要予約・先着順）
対　象　どなたでも（小学校3年生以下の方は保護者同伴）
講　師　荒田直氏、ほか3人
持ち物　はさみ、飲み物（必要な方）
申込み　11月19日（土）午前9時から電話で旧山辺学校校舎へ

お正月リース作り教室

日　時　12月11日（日）午前9時～正午
会　場　旧山辺学校校舎内
料　金　1人500円（材料費込み）
定　員　5組10人（要予約・先着順）
対　象　どなたでも（小学校3年生以下の方は保護者同伴）
講　師　宮坂ヤス子氏
持ち物　はさみ、飲み物（必要な方）
申込み　12月3日（土）午前9時から電話で旧山辺学校校舎へ

あとがき

たくさんの人たちに支えられ、ついに新博物館の建物が完成しました。市街地にそびえる真新しい博物館の姿に、身が引き締まる思いです。立派な外観に負けないよう、来年の開館に向けて引き続き展示作業や収蔵資料の引越しに邁進します！

（松本市立博物館　吉澤せり子）

あなたと博物館 No.241
発行年月日/令和4年9月15日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL：https://www.matsu-haku.com/
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.lg.jp
印刷　川越印刷株式会社